

現代において、「市民」という概念は政策行動の担い手として、あるいは政策が働きかける対象として社会科学の諸分野で様々に議論されている。本研究は「市民」や「市民社会」といった概念がどのように理解されているのか、どのような問題が含まれているのかについて両者の交錯関係を通じて検討するものである。

現代の「市民」概念は特定の地位や階級に限られることのない行為主体として、また国家や市場とは相対的に区別される社会領域として把握されている。すなわち、「市民」の対象範囲はより拡大され、「市民社会」には政治的営為を通じて既存の領域と対峙し、連携することが求められている。しかし、そのような認識にはいくつかの問題を指摘することができる。まず、「市民」が「市民社会」の内部に包摂され、外部には存在しないものとして認識されてしまうおそれがあること。それは一方で、「市民社会」という領域にあらわれてこない人々のありようが「市民」性に劣るものとして理解され、「市民社会」外部の差異や多様性が軽視されるという問題を内包している。また、そこには「市民社会」内部の多様性が一括して把握されてしまうという問題も指摘できる。すなわち、「市民社会」を構成する具体的な組織や団体の活動に「市民」の範囲が重ね合わせて理解されていることにもなう問題への配慮が、現代の議論には必ずしも十分ではないのである。

そこで本研究では、想定される「市民社会」の特徴を体現した行為主体がそのまま「市民」とされる、あるいは、望ましい「市民」という主体像を投影した社会がそのまま「市民社会」とされる、といった論理が暗黙の前提になっていることに疑義を示し、こうした問題に対応し得るような両者の関係について考察する。それは、特定の社会領域に限定されない行為主体について、すなわち「市民社会」の内外に主体的な人々のありようを指摘しようとする試みでもある。そのような「市民」は、「市民社会」を構成する諸組織の外側に存在するという意味では「市民」ではない。しかし、こうした組織や団体に加入し、脱退する主体性を備えているという点では、ネットワークとしての「市民社会」の成員である。

このような関心にしたがって、まず、第1章や第2章では「市民」概念がその歴史的な推移のなかで明確な身分として構成されてきたことを、そして、その現代的な特徴が「共同体」や「多様性」を志向するところに見て取れることを指摘する。現代の「市民」は大衆を基盤とする行為主体として、また国家や市場と同一ではない社会領域に期待されているという点で歴史的な「市民」概念とは異なる特徴を示している。しかし一方で、やはり政治的な営為に積極的に関与することが求められているという点では、その歴史的な特徴と共通している。それは、現代の「市民」概念が「共同体」で育まれる協調性や連帯意識といった価値規範を重視しながら、「市民社会」の内部に完全に同質化されることのない「多様性」に留意していることを示している。

また、第3章や第4章ではリベラリズムとコミュニタリアニズムの現代的な議論、あるいは「寛容」をめぐる議論を通じて「個人」と「共同体」の差異や多様性を確保する仕方がどのように考えられているのかについて検討する。そして、第5章では「市民」の態様が戦後の日本でどのように認識されていたのかについて、法と道德の関係、あるいは大衆社会との関係に注目する議論を参照しながら部分的に言及する。各章を通じて、「市民」が「市民社会」の構成員としてその内部に位置づけられていることを確認し、それにもなう問題を指摘していく。すなわち、「市民」としての発意が「市民社会」を構成する組織や団体への具体的な参加の多寡としてのみ認識されるならば、領域内部の同質性やその閉鎖性といった問題は残り続ける。非権力的な大衆から

なる「市民」や非国家的・非市場的な「市民社会」の内部にこそ、「市民」として具体的な活動に参加することが困難な、しかし個々の事情を勘案し、個別に対処されることが必要な社会的弱者が包摂されているのである。したがって、これらの概念について検討する現代の議論には、「市民社会」的な組織に反映されない主体性に留意しながら「市民」を定位することが求められている。

そこで本研究では、争点ごとに共通の問題意識を持ち、自律的に、そして暫定的に集散する「市民」の態様やその意義について言及する。ここでは、「市民社会」は争点ごとに編成され、しかし内部の多様性は暫定的な集散を通じて維持されることになる。「市民」と「市民社会」の関係がこのように考えられるのならば、「市民」の領域にあらわれてこない価値選択の結果が即座に劣弱なものとして認識されることは避けられるだろう。それは「市民」概念の現代的な射程が、問題意識や合意形成のルールを共有する「共同体」と様々な争点に応じられる「多様性」の両方に向いていることを示している。